



第4回「日中韓ユース・フォーラム」の成果

―見えはじめた真の意義と方向性―

昨秋、日中韓関係の緊張が更に高まる中、3国の国連協会の共催と札幌大学の協力の下、第4回ユース・フォーラムが9月16日から20日まで北海道で開催された。参加した100余名の大学生達は「東アジア文化と西洋文化の創造的共生」ユースと女性のエンパワメントと代表権「情報格差と通信技術の乱用防止」などを熱く論じ、国連総会作業部会による「持続可能な開発目標」の設定審議を模した。学

生達の発言や合意文書には、3国が共同して国際社会の牽引力になることへの期待も散見された。

盛り沢山の知的交流プログラムに加え、持ち寄った文化・ソーシャル・プログラムは北東アジアの同胞意識を醸成し、ユース・フォーラムの意義と方向性を考えさせる結果となった。学生事務局と共に、過去3回と同様、今回も企画・運営に尽力した功刀理事が更なる発展につき示唆を加える。

日本国際連合協会理事

功刀達朗

恒例の国連協会長会議

ユース・フォーラムの前日、国連協会長会議が丸一日開かれた。国連協会世界連盟(WFUNA)の朴錫吉(パク・スギル)会長も出席し、各国の国連協会活動の効果を高める努力を紹介したのに続き、国連の三つの中心課題である「平和・開発・

人権」につき参加者の間で率直に意見の交換がなされた。お互いの理念の類似性とアプローチの差異について理解を深める機会となった。

例えば今回初めて参加した中国国連協会の卢树民(ル・シュミン)新会長は、人権概念と適用には国と地域により差異があると指摘した。同じく初めて参加した韓国国連協会李

浩鎮(イ・ホジン)新副会長・CEOは、東アジアにおける近年の経済力・軍事力の発展は「アジアのパラドックス」とも呼ばれる新たな協調的相互依存と対抗関係を生み、国連や地域的アプローチでは容易に対処し得ない事態を招いていると述べた。

北東アジア3国が共有する文化と



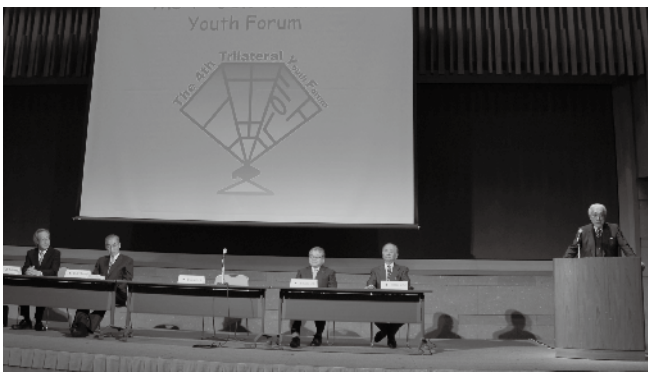
国連協会長会議

伝統、殊に儒教の平和と調和にかかわる基本原則は、北東アジアのみならず、グローバル・レベルでも価値ある行動規範の源泉となるものであるとル会長は強調し、仁、義、礼、智、信の五つの徳を挙げた。日本国連協会の千玄室会長は茶道の基本精神そのものである和、敬、清、寂は、五つの徳と共に人々の心の深奥に影響し、心的改造から社会を和と平穏

に導く理念であることを指摘した。この他、国連は国単位の垂直的ガバナンスに加え、市民社会、コミュニティ、NGO等の参画にも開かれた横の連携により、世界の基本的規範を進化させていくことが重要であるとされ、このためには女性とユースの役割を重視し、持続可能な「積極的平和」を促進するアカウンタビリティと情報公開が必須であるとの意見も出された。

今回の会合では、前回2012年に行ったように「領土紛争はあくまでも折衝と対話で解決すべし」とする声明文を会長会議の名前で採択するようなことはなかった。しかし3国が優れた知見を持つ少子高齢化、災害対策、公害対策などの具体的問題や、科学技術の責任に関し、国連の場で先見的グローバル公共政策や国際協力を共同して提言することは望ましいとされた。

終わりに、4年前から毎年共催しているユース・フォーラムについて、参加学生の要望やイニシアチブにより、毎年企画・運営に改善が導入されてきていることが具体例を挙げ報



ユース・フォーラム開会式

告された。これに関連して、今後とも学生達が、殊に関心を持つ課題につき、国連での政策審議や日中韓3国首脳会議に要望や提案を提出することの意義が再確認された。

ユース・フォーラム開会式とシンポジウム一日目

第一日目のプログラムは、札幌コ

功刀達朗(くぬぎ・たつろう)氏 1934年生まれ。東京大学中退、米コロンビア大学博士号取得。国連本部法務官、中東PKO上級法律顧問、在ジュネーブ代表部公使、フランクフルト総領事、国連事務次長補(カンボジア人道援助・国連人口基金担当)を歴任。国際基督教大学教授を経て、国連大学高等研究所客員教授。

ンベンションセンターの取り計らいにより、すべて一般公開で行われた。開会式は千玄室会長とWFUNAのパク・スギル会長の開会の辞に続き、札幌市長、札幌大学理事長、札幌コンベンションセンター名管理理事長から温かい歓迎の挨拶が行われた。その後、中国と韓国の学生代表団長が、「空から見ると、日本全土が美しい緑に覆われているのに驚いた」、「台風で到着が遅れ心配していたとき、皆親切で安心した」などと第一印象に触れ、日本の団長は、「このフォーラムでは、なんでも思うことを話し、相手の言うことを尊敬してよく聞きましょう。そうすればより良き相互理解と、より良き未来につながるのです」と短いスピーチをして、学生達が主役であることを印象付けた。

シンポジウム―三つのトピックと三つの基調講演

シンポジウムでは次のトピックを取り上げた。

(1) 東アジア文化と西洋文化Ⅱ人類社会の安寧と発展を目指す創造

的共生
(2) ユースと女性の声を国連会議と日中韓首脳会議の政策に反映させる策
(3) 情報格差Ⅱ通信技術の発達と乱用防止

中国国連協会ル・シュミン会長、韓国国連協会イ・ホジン副会長は、三つのトピックに言及し、いずれも東アジア地域の新たな危機に関連しているものであり、その克服には地域レベルとグローバル・レベルでの協調的努力を要すると述べた。またこの関連で、国家・政府以外の市民社会のアクターの役割が増大している今日、これらのグループと人々の間の対話と協力関係が、東アジアの伝統的社会倫理と共通の価値に促進される可能性を指摘した。更にイ氏は、若者や女性が築くネットワークは、共通の意識を将来に亘り広げていくので、その波及効果が期待されると強調した。

日本国連協会明石康副会長は過去3回のユース・フォーラムの成果として、若者達の間で相互理解の増進



基調講演

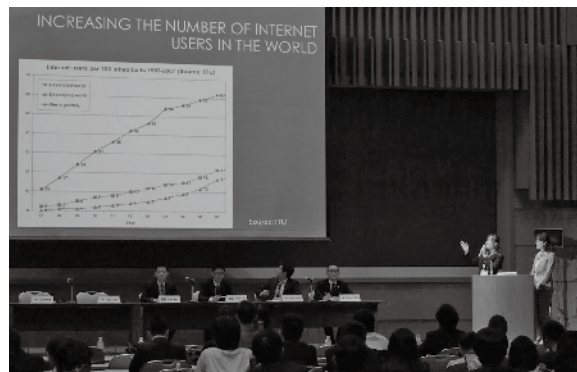
握する必要があると強調した。

基調講演のインパクト

含蓄に富んだ、濃い内容の講演から学生達が受けた印象では、講演者の見方には悲観的な予測はほとんど無く、前向きな視点からの問題指摘と若い世代に対する期待が共通項であった。緊張の更なるエスカレーションを危惧していた学生達は、やや安堵すると共に、現在の3国関係の背景をもっと深く学ぶ必要があると痛感した。

学生達の研究報告

シンポジウムの3トピックの夫々については、日中韓の代表団から2名ずつ、計18名が研究報告を、パワーポイント(PPT)を使用して手際よく発表し、質疑応答(Q・A)がこれに続くという方式をとった。各トピックを2時間で完了させるのは至難の業と思われたが、これは無事終了し、2日目の継続討論を可能とした。その理由としては、



シンポジウムの研究発表

(1) バックグラウンド・ペーパー(BG)が日本代表団の6名と韓国代表団の1名で作成され全参加者に配布してあった。
(2) 第4回ユース・フォーラムの長川美里事務総長(東大院)が全てのBGとPPTの編集責任も務めたことから最も効率的に司会を行い、その円滑な流れを福岡純一副事務総長(関西学院大)が援けていた。
の二点が挙げられる。

シンポジウム二日目

初めに全体会合を開き、前日の報告と論点を整理し、それに続き15名で構成する五つの小グループでさらに議論を深め、その結果を起草委員会がコンセンサス報告案にまとめ、全体会議でこれを修正の上採択するという四つのステップをとった。その結果ほとんどすべての意見と提案が反映されるに至った。各トピックにつき二、三のハイライトを挙げる



小グループの協議



と次の通り。

●「東アジア文化と西洋文化」については、「東アジアへの大きなシフト」は、単なる臆説から実践命題の一つとなり、文化力・知力の創造的シナジーが期待される。漢字文化を共通の背景とする北東アジアのアイデンティティーの再確認と共に、その多様性の評価と保存が重要である。日本の学生から3カ国の言語と人的資源の交流を促進する位相空間の創成が提案された。また、アルジャジーラの北東アジア版を創ることは有用であろうとの議論もあった。

●「ユースと女性」こそが世界を変える鍵を握るという趨勢認識から、それを阻害する政治・社会的要因を積極的に除くための様々な提案がなされた。社会・経済活動における女性のエンパワーメントに加え、結果平等推進策の導入や、国連機関に、ユースの要望と提案が反映されるよう、国連環境計画と国連人間居住計画の理事会におけるユースの代表・参加方式を広く採用することを要望する。また、3国首脳会議や閣僚会議には、ユースと女性の代表が一部



札幌市内観光で友好を深める参加学生

参加する機会が与えられたいくつかの前例を歓迎し、その恒例化を希望する。

●「情報格差と通信技術の乱用」の諸問題については、最も多くの学生が次々に発言した。通信技術の急速な発達には歓迎するが、その弊害と乱用は経済、社会、政治の分野で大きな障害を生じさせているので、日中韓3国が協力してインターネット技術の利用についての国際基準を世界に先がけ採用することを、韓国の学生

が提案した。3国ではインターネットの普及率は極めて高く、多くの有用性を発揮しているが、プライバシーの侵害やいじめを防止する行動規範が、公的機関と企業の協力により形成されることに多数が賛成。それは任意的なコードから始めることも可能であるが、乱用から派生する侵害からの保護や救済には法的規制の必要も論じられた。

「持続可能な開発目標（SDGs）」 設定・模擬国連——三日目

三日目には一日かけて模擬国連会議が行われた。これは第3回ユース・フォーラムで扱った「リオ・プラス20」の継続であり、国連総会の作業部会で2012年夏から2014年春まで進行中の重要審議である。

作業部会が扱う多くのトピックのうち、①雇用とディーセント・ワーク、②教育と文化の二つに関する審議を模し、各代表団には日中韓の学生が1名ずつ計3名参加した。田中佑典（京大）と笹倉俊樹（上智大）が作成したBGが事前に配布され、

3名ずつの学生の間でネットによる事前協議と準備が既に行われていた。本会議の議長は福岡純一副事務総長が務め、田中、笹倉両名が補佐した。

①のトピックについては、世界的金融危機とユーロ圏諸国の不況の結果、多くの先進国における高い失業率が続く中、環境の視点からも持続可能な成長と投資を保つことに国際機関の協力を求め、一方途上国に対しては、労働者の技術レベルの向上、労働条件が悪化しないように農業その他の一次産業の状況を監視することを勧告した。また、若者と女性の雇用を保つために海外からの投資導入、マイクロ・クレジットの普及を奨励した。更に、途上国からの移住労働者、殊に女性と児童の人権状況の監視を強化し、ILO（国際労働機関）その他の機関に関連の統計データの提出促進を要請した。

②のトピックについては、年齢、人種、性、宗教、言語によって差別がなされることがないように、国家と市民社会グループの協力を得て、人権としての良き教育を保障するた

めに、ユネスコが定期的に「教育と文化の監査」を行うことを勧告した。教育と文化は持続的開発を促進する重要な要素の一つとして認め、ユースの視点から人権としての教育とその文化との関連性をSDGsの重要な焦点の一つとして位置付けることを勧めた。

以上の勧告が、総会に提出する作業部会の報告書に組み込まれるべしとする決定を採択するとともに、第4回ユース・フォーラム参加者全員は大要次の声明文をこの決定に添付した（次頁掲載）。

文化・ソーシャル企画の成功

参加者に最も人気があったのは、一日目の北海道の裏千家淡交会の数多くのメンバーによる「呈茶」おもてなし、札幌大学ウレシバ研究会の「アイヌ文化紹介」、3カ国語で歌った「世界に一つだけの花」、そして三日目の参加学生全員による多彩でダイナミックな「文化交流Ⅱカルチャール・ソーシャル・ナイト」であった。「ウレシバ研究会」は全員が先住民



「世界に一つだけの花」を3カ国語で

アイヌの子孫であり、美しい伝統衣装をまとって熱心に歌と踊りを紹介し、終わりに全学生は誘われるままにステージと会場フロアで輪になってアイヌの踊りに興じた。

3カ国語にアレンジした「世界に一つだけの花」を、お互いの言語の美しさを認め合い、同じ場所で自身の言語で、夫々の気持ちに乗せて歌うことがどうしてあれ程までに心を動かすのか、歌った当人たちは驚き、観客にも異常な感動を与えたことは確かである。これをアレンジした長



互理解へのムードがまた一層向上した今回のフォーラム終了後、多数の日本人参加者から、従来議論を避けてきた日中韓の歴史問題と領土紛争を含む政治問題を、今後は正式に機会を設けて取り上げ、実直な意見交換を行うべきだとの提案が表明された。時間が不足なら模擬国連無しでもよいという者も多い。

この提案は、中国の西安で今年開催予定の第5回ユース・フォーラムに関する協議で、中韓の学生の意向も聴取の上検討されることとなる。



人気投票でリーダーシップ賞・友愛賞の二つを受賞したパク・アンダーソン（ハンドン大学）と功刀理事

あろう。近現代の歴史についての知識は日本人大学生一般と同様、中韓の学生にも問題ありといわれていることから、全参加学生の準備が十分になされた上で慎重に始める必要があるだろう。しかし「善は急げ」といいたい。

長川事務総長から第4回ユース・フォーラムの報告書を受理した国連事務総長直属の Youth Envoy（青年担当特使）と、SDGs 作成担当事務局長からは、情報共有からはじめ、共通の課題を扱う国連機関、NGO、研究機関等との協力の試みが今年から始まるので、ユース・フォーラムもこれに参加するよう呼び掛けてきた。2010年にソウルに設立された日中韓3国協力事務局からは、次のユース・フォーラムには出席し、協力の方途を一緒に検討したいとの返答があった。

日中韓の企業を中心に構成される国連グローバル・コンパクト日中韓ネットワーキング会合（第6回を今夏日

本で開催予定）、既に7回開かれた「パネルディスカッション・東アジアの文化と平和」、今年50回となる亜細現代美術展、国連研究グループの年次会合、等々による民間交流推進は脈々と続いているので、ユース・フォーラムを母体とする人材ネットワークもこれらの団体から学びつつ、共に連携を広げていくことが有用であろう。ここ数年、日中韓関係は悪化の方向に転がっているようだが、ユースの特性である創造性、理想、勇気を活用し、これらの民間イニシアチブと共に、人々が望む方向にモーションを逆転させるといふ大きな夢を、小さく産んで大きく育てるのに寄与することを願いたい。

終わりに、日本国連協会北海道本部長伊藤義郎理事のご尽力と、東京での合宿の際素晴らしいご講義をいただいた先生方、美根慶樹、添谷芳秀、毛利勝彦3教授に、深くお礼を申し上げる。

川事務総長は、「価値観を認め合い、うまく三つを入れ込んで一つにすることがこれから先も出来れば、3カ国の未来は決して悲観するものではない」と感じたという。

三日目の夜の全員による「カルチャ・ソーシャル・ナイト」では、中国がその歴史を衣装で表現し、韓国は主にK-POP、日本はファッション・ショーを行ったり、はじめて英語で試みた「掛け合い漫才」で沸かせたりした。運営陣による歌とダンスの発表の後は照明を落とし、全員壇上に上がってソーシャルダンスを楽しむことも出来た。あの時感じたお互いの文化の素晴らしさと、北東アジア同胞の一体感はまさに感動的だったといわれている。

反省と将来への展望

日中韓ユース・フォーラムは、若者達の相互理解促進、人材育成とネットワーキング構築を通じて、北東アジア3国の長期的なパートナーシップ形成と、世界に開かれた東アジアの協力関係の構築を目指してきた。相

〈共同声明文〉（要約）

我々ユースは「雇用とディーセント・ワーク」と「教育と文化」の2問題に関心を抱くものとして、ユースの参加が今後のSDGs 設定作業に重要であると考え、我々は高い就学率と高い教育レベルを誇る日中韓3国の政府に対し、国連総会のSDGs 作業グループのメンバーとして協力し合い、初等教育の普及を世界中で達成することに貢献することを要望する。

雇用に関しては、1日\$1.25で生活している労働者の総数は2001年に比べ2010年には2億9400万減少したが、労働の質は低下していることに我々は憂慮し、日中韓3国の政府と企業セクターのリーダーに対し、新しい概念のディーセント・ワークとSDGs 達成に寄与することを期待する。

世界人口の約25%はユースであり、50%が女性であることを考慮し、ユースと女性にグローバル公共政策の立案と決定に参画する機会を増すことを期待する。日中韓3国の共同歩調は、持続可能な開発目標設定とその達成に、国際社会全体の大きな牽引力となることを疑わない。我々は地球市民としての責任を果たすべく、そのような3国の共同歩調に加わりたいと願っている。

第4回ユース・フォーラム参加者一同 北海道 2013年9月19日